

令和 7 年産

# 大崎麦作情報 第 1 号

令和 6 年 10 月 8 日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

TEL0229-91-0726 FAX0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## ～令和 7 年産麦の安定生産に向けて～

- 生育量を確保するため、播種晩限の 10 月 20 日までに播種しましょう。
- 前年雑草が繁茂したほ場では、除草剤による対策を行いましょう。
- 生育調節のため、麦踏みを行いましょう。  
→麦踏み（踏圧）：年内 1 回、越冬後 1～2 回が目安

### ○年内の栽培ごよみ

時期	10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ			出芽 (播種後約10日)			幼苗期 (2～3葉期)			
主な作業		播種	除草剤散布				麦踏み (越冬前)		除草剤散布

年内中に1回  
行いましょう!

### ○年内目標生育量

葉数：5～6 枚、分けつ：1～2 本/株、莖数：400～500 本/m<sup>2</sup>

東北太平洋側 1 か月予報 (10 月 5 日から 11 月 4 日) 10 月 3 日仙台管区气象台発表

<向こう 1 か月の確率 (%)>

	低(少)	平年並	高(多)
【気温】	10	10	80
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	40	20

<気温経過の確率 (%)>

	低い	平年並	高い
1 週目	10	10	80
2 週目	10	10	80
3～4 週目	10	30	60

# 1 ほ場準備

## (1)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して排水対策を行いましょう。

### ○明きよ

- ・溝の幅、深さは20~30 cm程度とし、後の作業に支障がない程度としましょう。
- ・明きよと排水溝は必ず連結させましょう。
- ・排水不良のほ場は、ほ場内にも5~10mの間隔に1本の割合で明きよを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

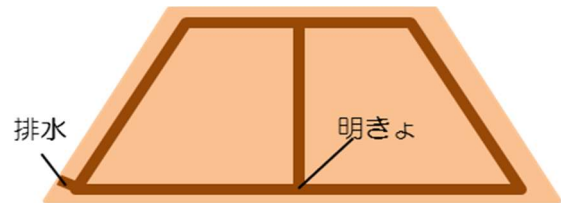


図1 明きよの施工例

### ○暗きよ

- ・本暗きよと補助暗きよ（弾丸暗きよや心土破碎）を組み合わせ、排水の効果高めましょう。

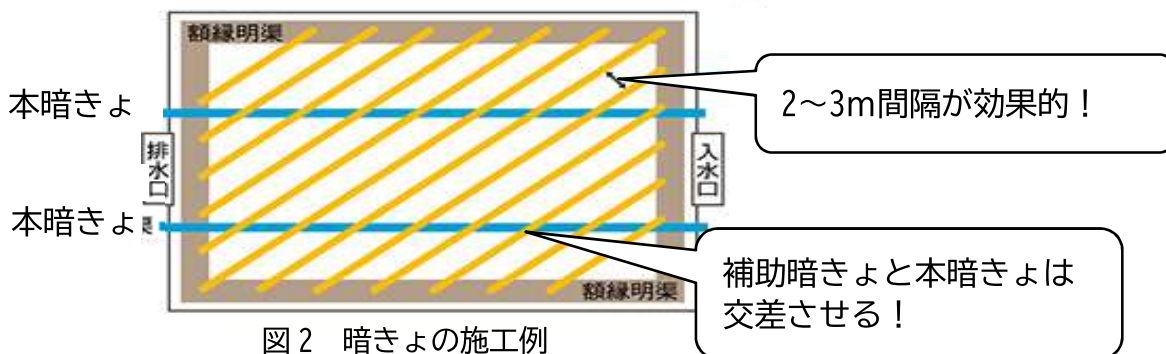
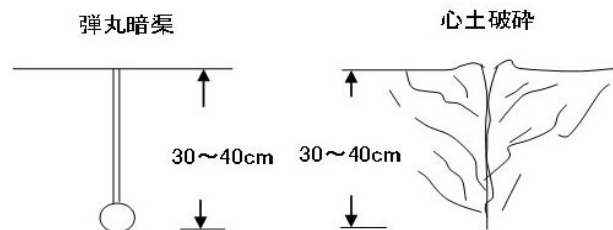


図2 暗きよの施工例

## (2)土づくり

### ○酸度矯正

麦は微酸性~中性の土壤酸度を好みます。

定期的に土壤診断を受け、土壤酸度を調整しましょう。

目安：pH5.6~6.5（小麦） ※転換畑の土壤酸度は通常 pH5.0~6.0 程度

### ○地力増進

毎年堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。

有機物は土壤の物理性改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果があります。

目安：稲わら・籾殻等が主体の堆肥…2t/10a 程度

牛ふん堆肥（窒素含有率1%程度）…1t/10a 以内

豚ぱん堆肥（窒素含有率2%程度）…500kg/10a 以内

## (3)基肥

### ○10aあたりの標準施肥量

窒素 8~10 kg、リン酸 8~10 kg、加里 10 kg

※稲わらをすき込んだほ場は、窒素を1~2割増で施用してください。

## 2 播種

### (1)適期播種

播種晩限…10月20日（北部平坦地域）

播種が遅れるとさまざまな弊害があります。

適期播種を行い、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

#### 播種遅れによる弊害

出芽遅れによる初期生育量の不足、根張りの不良、茎数不足、出穂のバラつき、未熟粒の発生等が挙げられます。

その結果、収量と品質の低下に繋がります。

### (2)播種量・播種方法

○播種量：8～10 kg/10a（ドリル播き）

播種時期が10月20日を過ぎる場合は、茎数確保のため、播種量をやや多めにしましょう。

○播種方法（ドリル播き）

条間は15～30 cm、播種深度は3 cmが目安  
播種作業にあたっては、砕土を入念に行い、  
覆土不良や浅播きにならないよう注意してください。



写真 ネズミムギの幼植物と出穂期

## 3 雑草防除

麦連作ほ場を中心に麦作の難防除雑草であるネズミムギ（イタリアンライグラス）の発生がみられます。前年の発生が多かったほ場では**土壤処理剤を散布**し防除しましょう。

土壤処理剤の効果を上げるためには、ほ場の砕土率を70%以上とすること、適期散布・適度な土壤水分時の散布を心掛けましょう。土壤乾燥時に散布する際は、登録範囲内にて希釈水量を多くしましょう。

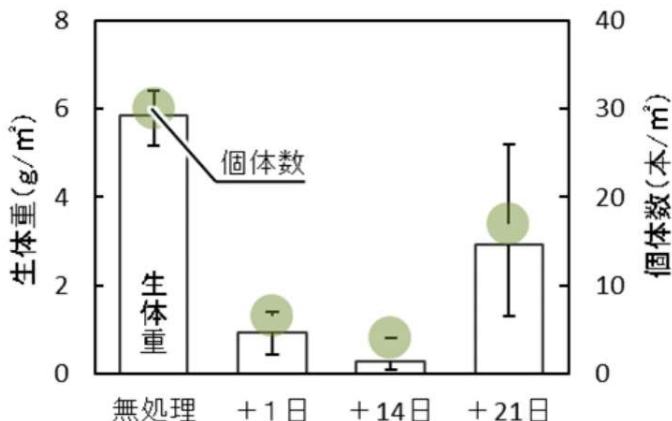


図3 リベレーターフロアブルのネズミムギへの防除効果（平成30年古川農試）

注1) +○日は、大麦の播種後日数を示す。  
処理日：10/28(+1日)、11/10(+14日)、11/17(+21日)

注2) 残草調査は、4/4（播種後160日）に実施

※ネズミムギ対策としては、リベレーターGやボクサーも比較的效果が高い。

表1 小麦の主な土壌処理剤（イネ科・広葉雑草対象） ※一部茎葉処理効果もあり

除草剤名	適用雑草	使用時期	希釈倍数・使用量 (散布液量)
ガレス乳剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	200~250mL/10a (100L/10a)
ムギレンジャー 乳剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	300~600mL/10a (通常散布 50~100L/10a) (少量散布 25~50L/10a)
リベレーターG	一年生雑草	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	4~5kg/10a
リベレーター フロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	60~80mL/10a (100L/10a)
ボクサー	一年生雑草	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~発生始期)	400~500mL/10a (50~100L/10a)
		麦2~4葉期 (雑草発生前~発生始期)	400~500mL/10a (70~100L/10a)

農薬の登録情報（令和6年10月7日現在）

## 4 麦踏み(踏圧)

耐寒性、耐干性強化などのために麦踏みを行いましょう。

○作業時期：越冬前の12月上~中旬（ほ場に凍結層ができる前）

※2回目以降は3月上・中旬（生育が再開する再生期以降）に行いましょう。

○生育状況：離乳期（3~4葉期）~茎立ち前（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）

※幼穂長が3mm以上になると麦の生育に悪影響を及ぼすので注意しましょう。

### 麦踏みの主な効果

#### ○麦への効果

耐寒性、耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分けつの増加、  
分けつ相互の生育調整、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

#### ○土壌への効果

霜柱、干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

遅まきの場合、麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。

また過湿ほ場の場合、耕土を固結させて根の発育を阻害する恐れがあります。

いずれも逆効果なので、麦の生育状況とほ場の状態にご注意してください。

### ◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日~11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索、または右のQRコードを読み取ってください。

